

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第75号

2015年10月2日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. 2015年度全国研究大会を終えて

代表理事 福嶋輝彦

6月13日と14日に慶應義塾大学において、オーストラリア学会（ASAJ）2015年度全国研究大会が開催されました。この大会は、ASAJが世界のオーストラリア研究の一翼を主導していくという、昨年の国際大会で確認された精神を内外にアピールする大会になったと思います。こうした大会を実務面で支えて下さったホスト校の塩原良和理事とその研究室スタッフの皆さん、そして財政面で寛容な助成をいただいた豪日交流基金（AJF）に、心よりお礼申し上げます。

大会では最初に Anna Johnston 客員教授から、1930年代から発刊された Walkabout という雑誌が読者に伝えようとした自国の風景を、豊富な画像を使って紹介してくれました。次の AJF 助成シンポジウムでは、Dr Tim Soutphommasane から、人種差別禁止法の下では極力調停という手段を通じて差別をめぐる紛争を処理してきたことが強調されました。この点は「今オーストラリアの政治から日本が何を学べるか」というシンポのテーマの正鵠を射るものと言えるでしょう。さらに Dr Nick Economou からメルボルンでの Greens 票について、Dr Anika Gauja から、今年の NSW 州議会選挙争点について、興味深い分析が提供され、杉田弘也会員の司会の下、活発な質疑応答が交わされました。懇親会の中では一谷智子会員が、晴れの第1回オーストラリア学会優秀論文賞受賞者として選考されたことが発表されました。受賞を祝するとともに、選考委員の労にも感謝申し上げます。

2日目の午前には個別研究報告に当てられましたが、3つもの分科会を設けなければならないほどでした。この流れが次の優秀論文賞に続くことを強く願っております。午後には第2のシンポジウムが行われ、ANZAC Day における先住民退役軍人、北部準州における所得管理、Port Adelaide における先住民と白人貧困層との連携について報告があり、これに多文化主義の観点から関根会員が討論を加えました。特筆しておきたいことは、同時通訳のない2日目のプログラムを通じて、4名のオーストラリアからの報告者がすべて出席し、討論に参加してくれたことです。大会終了後、非常に良質の分析がなされていると、高い評価をいただきました。大会準備期間も含めて、この日本からオーストラリア研究をリードしていくという ASAJ の野望にご協力いただいた関係諸氏に厚くお礼申し上げます。

2. 松浦俊郎氏（元豪日交流基金副所長）を偲ぶ

代表理事 福嶋輝彦

豪日交流基金在日事務所の草創期に副所長を務められた松浦俊郎氏が、今年の4月22日に享年92歳でお亡くなりになった。ここに心よりご冥福をお祈り申し上げたい。1980年代半ば頃、日本でのオーストラリア研究者の連携を強化する活動が始められた。当時はバラバラの様々な分野の研究者たちに声をかけ、3回のシンポジウムを立ち上げるのに尽力されたのが松浦さんであった。これを受けて1989年12月にオーストラリア学会が設立されると、監事に就任された松浦さんには、当時財務担当の私は毎年会計監査をお願いしなければならなかったが、いつも暖かい労いの言葉をかけていただいた。また、1996年の上智での大会で、私が占領軍総司令部経済科学局の外国貿易課が戦後間もない日本の対豪貿易に重要な役割を果たしたという研究発表をしたところ、普段は控えめな松浦さんがすっと挙手され、当時そこで働いていた自分がそんなに大切なことをしていたとは夢にも思わなかった、とコメントをいただき、歴史を掘り起こす手応えを感じさせてもらったことを覚えている。そんな松浦さんの御霊に感謝の言葉を捧げたい。

3. 第一回オーストラリア学会優秀論文賞

栄えある第一回オーストラリア学会優秀論文賞は、一谷智子会員の「核とオーストラリア文学——B. ワンガ一の写真集と連作小説を巡って」（『オーストラリア研究』27号掲載）に決定いたしました。

一谷論文は、日本では忘れられがちな、オーストラリア大陸における、①第2次世界大戦直後の英国による原・水爆実験と、②1960年代の資源ブーム以後のウラン鉱山開発にともなう放射能被害にともなうアボリジニ社会の崩壊・解体について、真正面から扱ったセルビア系移民B・ワンガーの写真集『トーテムと鉱石』とニュークリアーサイクルと呼ばれる連作小説『ワグ』(1983年)、『カラン』(1986年)、『カボ・ジャラ』(1988年)、『ラキ』(1994年)を通して、オーストラリアの歴史の暗部を明らかにしたもので、大変貴重なものと思われる。出自の偽称問題がスキャンダルとして注目を浴びたことで、これまでオーストラリアでは必ずしも正当に評価されてこなかった作家B.ワンガーの写真集や連作小説に光を当てながら、「3. 11後の世界文学」としての価値や可能性を論じた点でも評価できる。

本論文はそのワンガーがアボリジナル性を語らなければならなかった理由を日本では(恐らく)初めて明らかにし、ワンガーが離国作家としての越境性を持ちつつオーストラリア作家として真摯に核問題に取り組み、そのテキストをもって核の世紀に警鐘を鳴らす世界文学の域まで達したことを示唆するという貴重な知見を提供している。一谷氏のワンガーの文学批評は明快で説得力を持つ。また、本論文は、社会批評としての文学の立ち位置や、社会におけるマイノリティあるいは越境作家の主体性を考えさせるもので、文学分野の域を越えたオーストラリア研究としての貢献度が高いものである。学会員以外にも広く読んでもらいたい論文である。

また一谷氏の研究者としての将来性も高いと考えられる。このことはオーストラリア研究の発展にとって大きな貢献であり、また執筆者の今後のさらなる研究の展開と深化を期すことができると思われる。

一谷論文においても今後克服すべき課題なども散見されたが、実績もさることながら、他の論文よりも一谷論文の3・11問題との関係性が強いことが、オーストラリア学会賞選考委員の多くに深い衝撃を与えたものと思われる。他の論文も、内容的にも充実したものが多かったが、一谷論文を本学会賞選考委員会は、理事会に推薦することとした。

受賞の言葉

一谷智子

この度、記念すべき第一回目のオーストラリア学会優秀論文賞を頂くことになり、大変光栄に思っております。選考に関係されたみなさま、研究活動において様々なかたちでご指導・ご支援をいただいたみなさまに、まずは心より感謝を申し上げます。

拙論では、1960年代からオーストラリアの核問題に切り込み、先住民が核実験とウラン採掘に伴う二重の核被害に晒された事実を描き続けているセルビア系オーストラリア作家B.ワンガーについて論じました。「核問題」という極めて政治的で重い主題ゆえに、本国オーストラリアではほとんど顧みられず、日本にも十分には紹介されてこなかったこの作家の再評価を行いたいというのが、本論の大きな目的でした。広島、長崎への原爆投下から今年で70年の節目を迎え、また、いまだ福島原発事故の収束を見ない日本にとって、ワンガー作品は今後の私たちの歩みを考える上で重要な作品です。83歳を迎えられた現在も、核の問題をテーマに作品を書き続けるワンガー氏に敬意を表しつつ、この論文執筆のための取材にご協力くださり、貴重な資料を提供して下さった氏にも、心からのお礼を申し上げます。

さて、この受賞に際しまして、オーストラリアのワンガー氏から届いた近況を、ここで少しだけみなさまとシェアさせていただきたいと思っております。3年前になりますが、この論文の執筆のためにメルボルンのワンガー氏を訪ねた折、氏の相棒であるディンゴの散歩にお供する機会に恵まれました。そのディンゴを主人公にしたワンガー氏の新刊、*Didu Jeridu Charmer* (ディジュリドゥ・チャーマー)が、この4月に出版されました。北部準州のカカドゥにおけるウラン採掘とフクシマをつなぐ作品になっているようで、核をめぐる彼の連作の5作目です。また、この論文に掲載させていただいた、ご本人が撮影された1960年代の核被害を受けた先住民コミュニティの写真は、メルボルンのState Museumに寄贈が決まったとのうれしい知らせもいただきました。

最後になりましたが、本日はこの全国大会への参加が叶わず、直接、お礼を申し上げることができませんこと、本当に残念に思いつつ、大会のご盛会をお祈りいたします。今後もこの賞をいただいたことを励みに、研究にまい進し、学会を盛り立ててゆけるようにと思いを新たにしています。様々な学問的分野の枠を超えて、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

4. 総会報告

日時 2015年6月14日(日) 13:00~13:30
場所 慶應義塾大学 三田キャンパス 東館6階 G-SEC Lab

以下の議題が審議され、承認された。

1. 2014年度一般会務報告
 - ①2014年度全国研究大会、上智大学で開催
 - ②「学会報」第72、73、74号発行
 - ③学会誌『オーストラリア研究』第28号発行
 - ④地域研究会開催
 - ⑤第1回優秀論文賞発表
2. AJF 事業
3. 2015年度活動計画
 - ①2015年度全国研究大会、慶應義塾大学で開催
 - ②「学会報」第75、76、77号発行
 - ③学会誌『オーストラリア研究』第29号発行
 - ④地域研究会開催
4. 2017年度全国大会開催校募集
5. 2014年度決算案・監査報告
6. 2015年度予算案

5. 第9期第5回理事会報告

日時 2015年6月13日(土) 10:00~12:30 (1回目)
2015年6月14日(日) 12:00~13:00 (2回目)

場所 慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟1階A会議室

出席者 青木麻衣子、福嶋輝彦、花井清人、飯笹佐代子、石井由香、川口章、栗山直子、馬淵仁、三宅眞理、村上雄一、永野隆行、岡本哲明、佐和田敬司、塩原良和、安田純子、吉田道代(以上、理事、ABC順)、白江英司、多田稔(以上監事)

【報告】

1. 川口理事より、2014年度一般会務報告があった。
2. 永野理事より、2014年度活動報告があった。
3. 飯笹理事より、2014年度編集業務報告があった。
4. 福嶋理事より、サー・ニール・カリー奨学金について報告があった。

【議題】

1. 塩原理事より2014年度決算案および2015年度予算案が提案され、承認された。
2. 永野理事より2015年度事業計画が提案され、承認された。2016年度の全国大会は、和歌山大学で開催されることが承認された。
3. 飯笹理事より、優秀論文賞の選考結果について説明があった。第1回優秀論文賞が一谷智子会員に授与されることが承認された。
4. 川口理事より、2012年における「みなし退会者」1名の承認を取り消し、正式退会者とする提案があり、承認された。
5. 川口理事より、学会誌への論文投稿者の会費納入状況を確認し、会費未納者には会費納入を求めることが提案され承認された。
6. 石井理事より、ホームページ改善案が提案され、承認された。
7. 川口理事より、「国際大会派遣費用助成ガイドライン」が提案され、承認された。
8. 川口理事より、2015年10月22-25日に上海で開催される Foundation for Australian Studies in China 主催の国際会議に福嶋輝彦代表理事、鎌田真弓会員、原田容子会員の3名の代表者を派遣すること、および上記ガイドラインに基づき本学会から渡航費の一部を助成することが提案され承認された。
9. 2名の入会と11名の退会が承認された。

6. オーストラリア学会財務諸表（決算）

オーストラリア学会財務諸表

貸借対照表

平成27年3月31日現在

円

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	362	△ 362
普通預金	4,027,365	3,890,352	137,013
郵便振替口座	206,920	236,800	△ 29,880
流動資産合計	4,234,285	4,127,514	106,771
資産合計	4,234,285	4,127,514	106,771
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	21,000	53,000	△ 32,000
未払金	304,560	402,450	△ 97,890
流動負債合計	325,560	455,450	△ 129,890
負債の部合計	325,560	455,450	△ 129,890
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	3,908,725	3,672,064	236,661
正味財産合計	3,908,725	3,672,064	236,661
負債及び正味財産合計	4,234,285	4,127,514	106,771

正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

円

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	918	824	94
②受取会費	1,490,000	1,758,000	△ 268,000
③雑誌販売収益	23,320	6,160	17,160
④前年度大会補助残金	0	147,345	△ 147,345
⑤その他	18,000	0	18,000
経常収益計	1,532,238	1,912,329	△ 380,091
(2) 経常費用			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	150,000	△ 50,000
特別会計繰入金	0	208	△ 208
25周年記念事業積立金	200,000	200,000	0
事業費計	300,000	350,208	△ 50,208
②管理費			
印刷費	345,642	440,348	△ 94,706
会議費	50,362	86,490	△ 36,128
消耗品費	3,549	31,500	△ 27,951
通信費	130,182	114,411	15,771
業務委託費	465,842	612,698	△ 146,856
雑費	0	0	0
管理費計	995,577	1,285,447	△ 289,870
経常費用計	1,295,577	1,635,655	△ 340,078
当期経常増減額	236,661	276,674	△ 40,013
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	236,661	276,674	△ 40,013
一般正味財産期首残高	3,672,064	3,395,390	276,674
一般正味財産期末残高	3,908,725	3,672,064	236,661
II. 正味財産期末残高	3,908,725	3,672,064	236,661

収支決算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

円

科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	918	82
②受取会費	1,680,000	1,490,000	190,000
③雑誌販売収入	20,000	23,320	△ 3,320
④前年度大会補助残金	0	0	0
⑤その他	0	18,000	△ 18,000
経常収益計	1,701,000	1,532,238	168,762
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	100,000	0
特別会計繰入金	150,000	0	150,000
25周年記念事業積立金	200,000	200,000	0
事業支出計	450,000	300,000	150,000
②管理費			
印刷費	376,000	345,642	30,358
会議費	100,000	50,362	49,638
消耗品費	20,000	3,549	16,451
通信費	50,000	130,182	△ 80,182
謝金	15,000	0	15,000
業務委託費	650,000	465,842	184,158
学会賞商品購入費	30,000	0	30,000
雑費	10,000	0	10,000
管理支出計	1,251,000	995,577	255,423
事業活動支出計	1,701,000	1,295,577	405,423
事業活動収支差額	0	236,661	△ 236,661
II. 投資活動収支の部			
	0	0	0
III. 財務活動収支の部			
	0	0	0
IV. 予備費支出の部			
		0	0
当期収支差額	0	236,661	△ 236,661
前期繰越収支差額	3,672,064	3,672,064	0
次期繰越収支差額	3,672,064	3,908,725	△ 236,661

特別会計

25周年記念事業積立金特別会計

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

円

収入		
前期繰越金	499,070	
一般会計繰入金	200,000	
		699,070
支出		
大会補助金	185,605	
		185,605
収支差額		513,465

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をしないものとみなした。

財産目録(総括表)

平成27年 3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管		0
	普通預金	運転資金として	4,027,365
	ゆうちょ銀行口座		4,027,365
	郵便振替口座	運転資金として	206,920
	郵便振替口座		206,920
	25周年記念事業積立金(ゆうちょ銀行)	25周年記念事業運営のため	536,141
流動資産合計			4,770,426
資産合計			4,770,426
(流動負債)			
未払金			304,560
	前受会費収入	翌事業年度以降会費	21,000
預り金		上智大学返金	
流動負債合計			348,236
負債合計			348,236
正味財産			4,422,190

7. オーストラリア学会財務諸表(予算)

オーストラリア学会2015年度
国際学会派遣事業・学会賞事業特別会計

オーストラリア学会2015年度収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算額	差額
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	1,000	0
②受取会費・入会金	1,500,000	1,680,000	△ 180,000
③雑誌販売収入	20,000	20,000	0
④その他	150,000	0	150,000
経常収益計	1,671,000	1,701,000	△ 30,000
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	100,000	0
特別会計繰出金	150,000	150,000	0
国際学会派遣事業・学会賞事業特別会計積立金*	150,000	200,000	△ 50,000
事業支出計	400,000	450,000	△ 50,000
②管理費			
印刷費	376,000	376,000	0
会議費	100,000	100,000	0
消耗品費	20,000	20,000	0
通信費	100,000	50,000	50,000
謝金	15,000	15,000	0
業務委託費	620,000	650,000	△ 30,000
学会賞品購入費	30,000	30,000	0
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,271,000	1,251,000	20,000
事業活動支出計	1,671,000	1,701,000	△ 30,000
事業活動収支差額	0	0	0
II. 投資活動収支の部	0	0	0
III. 財務活動収支の部	0	0	0
IV. 予備費支出の部	0	0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	3,908,725	3,672,064	236,661
次期繰越収支差額	3,908,725	3,672,064	236,661

*25周年記念事業積立金より改称

収入		円
前期残高繰越	513,465	
積立金	150,000	
計	663,465	
支出		円
学会賞品・賞状等費用	30,000	
会員国際学会派遣費用	300,000	
残高繰越	333,465	
計	663,465	
収支差額	0	

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会 2016 年度総会・全国研究大会は、6月11日(土)・12日(日)の両日に、和歌山大学で開催される予定です。(詳細は会報次号 [2月発行予定] でお知らせいたします。)

個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、11月末日までに、学会事務局あて書面(メール可)にてお申し込みください(200字程度の要旨を添付してください)。

8. 第28回全国研究大会開催校および企画募集

2017年度(2017年6月)オーストラリア学会全国研究大会の開催校、ならびに企画を募集しております。大会開催、もしくは企画にご協力くださる会員の方は2015年11月末までに、永野隆行(企画担当副代表理事、tnagano@dokkyo.ac.jp)までご連絡ください。なお企画については、豪日交流基金(AJF)助成金対象事業として助成金を申請する予定です。オーストラリアの研究者を日本にお呼びして学術交流を行う良い機会となりますので、ご関心のある方は是非ご連絡下さい。

9. 第21回地域研究会(関西例会)のお知らせ

***非会員の方も参加できます**

日時: 2015年11月7日(土) 14:00-17:00

場所: 追手門学院大学 5号館8階 大会議室AB

連絡先: 追手門学院大学社会学部 栗山直子 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15、

Email: kuriyama@otemon.ac.jp または FAX: 072-643-9432 (教務課代表)

(FAXには必ず「社会学部栗山宛 関西例会申し込み」と表書きをお願いします)

交通: JR 茨木駅西口から南へ徒歩7分「イオン茨木ショッピングセンター」横、または阪急茨木市駅西口から追手門学院スクールバス13:30発をご利用ください。

発表1 14:00-15:20 (発表50分、質疑30分)

「オーストラリアのTANKAについて」

田中教子 (近畿大学 非常勤講師)

<要旨> TANKAとよばれる5行詩がオーストラリアで盛んになったのは2005年頃からである。翻訳と朗読を通してTANKAに興味をもった人々がTANKA会を発足し、短歌専門雑誌を出版。現在、日本の短歌を意識しつつ、新しい英詩の世界が展開されつつある。

発表2 15:40-17:00 (発表50分、質疑30分)

「トレス海峡諸島人によるジュゴン猟の窠状—サイエンティストと島人の〈海〉への関わりの差異に関連して—」

松本博之 (奈良女子大学名誉教授)

<要旨> オーストラリア・トレス海峡の人々は4,000年来大型哺乳類ジュゴンの狩猟をつづけている。今日国際的な生物多様性保全のスローガンにより、ジュゴン猟は環境問題と並んで、新たな社会問題・政治問題の様相を帯びる。その基底には、サイエンティストの希少生物への資源観と先住の人々の生活の安全保障(Human Security)を含む自然観との両立のむずかしさがある。

10. 第10回地域研究会(関東例会)のお知らせ

※事前申込み不要、非会員の方も参加出来ます。

日時: 2015年11月21日(土) 13:00~18:00

会場: 早稲田大学・早稲田キャンパス(教室未定:オーストラリア学会ウェブサイト上で告知します。)

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩5分

<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

連絡先: 佐和田敬司(早稲田大学) ksawada@waseda.jp

共催: 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター(「演劇・舞台芸術」全学共通副専攻全体活動) 早稲田大学オーストラリア研究所

「オーストラリア演劇と戦争の記憶—The One Day of the Year の描くANZAC 神話」

① 『年に一度のあの日』The One Day of the Year (Alan Seymour)リーディング上演

② ラウンド・テーブル: 和田喜夫(演出家)、渡辺幸典(相模女子大学)、佐和田敬司(早稲田大学、モデレーター)

オーストラリア演劇史上最も重要な作品の一つであり、ANZAC 神話を主題とする Alan Seymour の戯曲『年に一度のあの日』The One Day of the Year を日本ではじめて上演し、作品の意義と、表現メディアを通して語られる戦争の記憶について議論します。リーディング上演の観客である学生や一般からも広く議論への参加を求めるラウンド・テーブルとします。

11. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4 月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2015 年 5 月に年会費を納入しても、2014 年度未払いの場合、それは 2014 年度の会費となります。すなわち、2015 年度は未納ということになります。また 2013、2014 年度未払いの場合、2013 年度分の会費納入になります。

<2014 年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2014 年度を含め最多 3 年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当あてまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在 2015 年 3 月発行、第 28 号）までをお送りしております。事務局では 3 か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(アカデミーセンター)にご連絡ください。

12. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿は常時受け付けておりますが、30 号に掲載する論文の投稿は 来年 8 月末日が締め切りです。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは 28 号掲載の「投稿要領」（2011 年 12 月 11 日一部改訂）をご覧ください。

また第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に係る目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。29 号(2016 年 3 月発行予定)掲載の締め切りは 2015 年 10 月 30 日(期日厳守)です。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだ CD もしくは USB)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

なお、「オーストラリア学会優秀論文賞」が創設され、さる 6 月の全国大会において第一回の受賞者が表彰されました。引き続き、学会員によって投稿・掲載された日本語・英語の論文が同賞の選考対象となりますので、会員の皆様方には奮って投稿をお願いいたします。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会
TEL:03-5937-0249,FAX:03-3368-2822 email:asaj-post@bunken.co.jp

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL : 03-5937-0249 FAX : 03-3368-2822 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付
TEL : 075-251-3469 E-mail: akawaguc@mail.doshisha.ac.jp
会費振込先 : 00190-3-157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

〔編集担当：村上雄一（福島大学）／編集協力：濱野健（北九州市立大学）〕